

6.12

電信課長

大臣
次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

寫送先

昭和8 一一七八八 暗

新東京 七月後發
本省 六月七日後着

内田外務大臣

武藤大使

亞

第六一五號

往電第五八八號ニ關シ

本件法案ハ五日國務院會議ヲ通過シタルニ依リ次會參議府會議ニ附議ノ上十四、五日頃公布ノ見込ナル趣ノ處先ニ貴電第三五四號(甲)御來示ノ次第モアリ右公布ト同時ニ國務院ヨリ談話ノ形式ニテ「本件商租權ハ滿洲國ト外交關係アル國ノ人民ニ對シ日本人ト同様ノ條件ヲ以テ之ヲ認ムルコトヲ考慮スルノ用意アリ」トノ趣旨ヲ發表スルコトニ打合セタリ

外務省

S 1.4.3.0-1 337

商租内務一係

然ル處右發表ニ對シテハ均霑ノ範圍ヲ外交關係アル國ノ人民ニ限り未承認國ニ對スル最惠國待遇ヲ否認スル結果外國側ヨリ却テ門戸開放機會均等ノ主義ニ反ストノ苦情アリ得ヘク貴電第三四四號ノ本旨ニ背馳スルコトトナルノ惧無キニアラサルモ往電第五三八號ニ對シ明確ナル御方針御回示ニ接セサルノミナラス前顯貴電御來訓ノ次第モアリ本件發表方打合タル次第ニ付御含置ヲ請フ
奉天、哈爾濱、吉林、間島へ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0-1 338

REEL No. A-0461

アジア歴史資料センター

公機密第五一八號

昭和八年六月七日

在滿洲國特命全權大使 武藤信義

外務大臣伯爵内田康哉殿

昭和八年六月七日附 在滿各公館長（分館ヲ含ム）宛往信寫送付
台機密第一〇四號

件名

一、滿洲國ノ暫行商租權登記法ニ關スル件

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1

339

合機密第一〇四號

昭和八年六月七日

在滿洲國特命全權大使 武藤信義

滿洲國ノ暫行商租權登記法ニ關スル件

土地商租ニ關スル暫行辦法ハ滿洲國側ニ於テ登記法及附屬法令ノ制定ヲ見サル爲事實上實施ノ運ニ至ラサル處之カ急速實施ノ爲必要ノ準備ヲ爲スヘキ旨再三督促ノ結果今策漸ク登記法案ヲ脱稿シ滿洲國側當局ノ外當館、軍其ノ他關係機關ニ於テ會同審議ノ上別添ノ通案文ヲ確定シ不日正式手續ヲ經テ公布ノ段取リトナリタルニ付委細右ニテ御了知相成度

追テ本件登記法ハ公布ノ上ト雖施行細則其他登記簿等ノ簿册準備ニ約二ヶ月ヲ要スル見込ナレニ付實施期日ハ猶相當遅ルル管ナル處愈々實施ノ曉ハ從來ノ商租權者ト雖權利確保ノ手段トシテ本法ニ依ル登記ヲ爲スノ要アル次第ニ付本法公布ト共ニ右ノ次第一般

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1

340

秘

發電昭和八年六月九日

土地商租臨時辦法ニ關スル滿洲國發表振ノ件

在滿 武藤大使

内田外務大臣

暗第四七三號

貴電第六一五號前段ニ關シ

本件聲明案ニ關シテハ客年十二月審議ノ際(イ)今次商租辦法ハ日本人ノミニ限ル排他的ノモノニ非スシテ他ノ外國人モ同様ノ條件ニテ之ニ均霑シ得ルモノナルコトヲ説明スルノ要アリトノ對外關係上ノ考慮ト(ロ)本件辦法ハ滿洲國側ニ於テ從來ノ條約關係ヲ離レテ同國ノ領域全部即北滿地方ニモ亘リ外國人ニ對シ一方的ニ新ナル利益ヲ許與セムトスルモノナルヲ以テ未タ滿洲國ト外交關係スラ存セサル國ノ人民ニ對シテモ此ノ際直チニ日本人同様ニ右ノ如キ利益ヲ許與スルコトハ滿洲國側ノ實情之ヲ許ササルモノアリトノ實際上ノ考慮トノ二方面ニ付考究スルコトトナリ軍部トモ協議ヲ重ネタル結果客年十

外務省

8.4

S 1.4.3.0 -1

342

居留民ニ周知方豫メ御手配相成度申添フ
本信送付先 在滿各公館長(分館ヲ含ム)
本信寫送付先 外務大臣

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1

341

二月往電第三五四號甲ノ如ク萬一外國側ニ於テ問題トスル場合ニハ必要ニ應シ滿洲國政府ヨリ土地商租ハ日本人ニ限ラス滿洲國ト外交關係アル國ノ人民ハ均シク之ニ均霑シ得ルモノナル旨ヲ聲明スルコトニ取計方電報シタル次第ナルカ(軍部ヨリハ滿參滿四六七ニテ關東軍參謀長宛電報セリ)其ノ後ノ實際ノ經過ニ徵スルニ本件商租問題ニ關シテハ客年十二月頃一時客年往電第三七四號ノ如キ新聞記事等アリタルモ其ノ後殊ニ本年三月商租辦法決定ノ旨公表アリタル後ノ事情ハ寧口當初懸念セン如ク外國側ニ於テ餘リ問題トスルコトナキ模様ニテ今日ニ及ヒ居リ而モ今次公布セラルヘキハ登記ノ手續法ナルニ顧ミ右ノ聲明ハ矢張り前記往電申進ノ通り萬一外國側ニ於テ問題トスル場合必要ニ應シ之ヲ爲ス(國務院談話ノ形式若クハ一層輕キ形式ニテモ差支ナシ)ニ止ムルコト可然ト認メラルルニ付右様滿洲國側ト打合セ置アリ度

外務省

滿洲國側及貴地軍部ニ於テ本件条文中ヨリ前記(ロ)ノ點ヲ削除シ(イ)ノ點即今次商租辦法ニハ日本人以外ノ何レノ外國人モ同様ノ條件ニテ均霑シ得ル點ノミヲ聲明スルコトトシ不便ナシトノ意向ナルニ於テハ自ラ別段ノ考慮ヲ加ヘ得ヘシ

奉天、哈爾濱、吉林、間島ニ轉電セリ

外務省

6.12

電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

寫送先

滿洲商租問題(件)

昭和8

一一九八三

暗

奉天 十日
本省 六月十日
後着

亞

内田外務大臣

蜂谷總領事

第一九六號

本官發滿宛電報

第一七三號

土地商租ニ關スル新辦法實施ト既成商租契約ノ處理方ニ關シ

一、大臣宛貴電第五一二號第一條及同第五八八號末段商租登記猶豫期
間不設定ニ依リ既成商租權ハ極メテ不安定且不利益ナル状態ニ置
カルルコトトナルヘキ處當館ニ於テ取扱ヒタル既成商租契約ハ昨
年十月末調査ニ依レハ件數三五七、商租權者八〇、面積四億百萬

外務省

S 1.4.3.0 -1

345

記

餘坪、商租料概算七百餘萬圓ニ達シ之ニ關係各領事館ノ分ヲ合ス
レハ遙ニ老大ナル面積金額ニ上ルヘク就テハ是等既成商租權者ノ
權利ヲ擁護スル爲本件猶豫期間ノ設定ハ絶對ニ必要ナルヘキニ付
右設定方是非共希望致度尙之カ辦法トシテ本件登記法發表ト同時
ニ既成商租權ニシテ領事館ニテ既ニ認證又ハ證明ヲ與ヘタルモノ
ヲ一括滿洲國地方官廳ニ通報スルコト便宜ナルヘシ若シ又猶豫期
間ノ設定カ到底實現シ得サルニ於テハ少クトモ前記領事館側ヨリ
スル既成商租權一括通報ヲ以テ第一條ニ謂フ登記ニ代ヘシムル等
ノ辦法ヲ講セラルルコト必要ト認ム
ニ大臣宛貴電第五八八號ニ依レハ既成商租地ノ登記ニ對シテハ新規
商租權ト同様等シク登記料千分ノ一ヲ納付セシムルモ契稅百分ノ

外務省

S 1.4.3.0 -1

346

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

次官 大臣

電信課長

6.15

A.4.3.0.1

昭和8 一二〇八四 暗 新京 十二日後發
 本省 六月十二日後着 亞

内田外務大臣
 第六三五號
 本使發奉天宛電報
 第五四號
 貴電第一七三號ニ關シ

一、既成商租權ノ保護方ニ付テハ豫テ御指摘ノ如キ理由ニ依リ登記ニ
 關スル猶豫期間ノ設定ヲ主張シタル次第ナルモ右實現セサリシニ
 付目下之カ善後措置ニ付攻究中ナリ

二、既成商租ニ關スル契稅ニ付テハ商租辦法ニ關スル申合當時ヨリ既

滿洲商租問題

外務省

S 1.4.3.0 -1 348

記

五ハ之ヲ徵收セサルモノト解セラルル處若シ契稅ヲ徵收セラルル
 ニ於テハ前記當館ノ既成商租ノミニテモ優ニ三十五萬圓ノ巨額ニ
 達スル次第ナルニ付少クトモ契稅ノミハ之ヲ免除方併セテ御交渉
 煩度シ

大臣へ轉電シ哈爾濱、吉林、齊々哈爾、間島、安東、牛莊、鄭家屯
 へ暗送セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1 347

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

次 大
官 臣

電信課長

亞細亞

A.4301

6.19

昭和8 一二四七〇 暗
 内田外務大臣
 第六四五號
 本使發在滿各領事宛電報
 合第二五八號
 滿洲國暫行商租權登記法ハ既報案文ノ通ニテ十四日公布セララル
 四日政府公報掲載教令第四十六號
 大臣へ轉電セリ

新京 十七日後發
本省 六月十七日後着 亞

武藤大使

S 1.43.0 -1 350

外務省

ニ問題トナリ當館トシテハ飽迄免除方主張シ居ルモ未タ最終的決定ヲ見サルモノニシテ近ク財政部トノ間ニ最後の折衝ヲ試ムル管ナリ

尙商租權ノ登記料ハ既成商租權ト新規商租權タルトニ論無ク設定又ハ移轉登記ナル限り近ク公布セララルヘキ暫行商租權登記法第六條ニ依リ千分ノ五(千分ノ一ニ非ス)ヲ納ムヘク無條件更新等ノ場合ニ於ケル期間延長ノ登記ノ如キ所謂變更登記ニ付テノミ同法第二條ニ依リ民國十一年不動産條例第一三一條ヲ準用シ千分ノ一ニテ足ル次第ナリ貴電中ニ總テ千分ノ一ト解セララルカ如キ懸有ルニ付爲念

大臣ニ轉電シ哈爾濱、吉林、齊々哈爾、間島、安東、牛莊、鄭家屯ニ暗送セリ

外務省

S 1.43.0 -1 349

6.27

電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
會計
會計

寫送先

(分類 14.3.0 /)

昭和8 一二八五〇 暗

間島
本省

廿三日後發
六月廿三日後着

亞

永井總領事

内田外務大臣

第一七三號

本官發滿宛電報

第一一四號

奉天宛電報第五四號ニ關シ

既成商租ニ關スル契稅免除方ニ關シテハ折角御配慮中ナル趣ノ處當
館ニ於テ取扱ヒタル既成商租契約モ客年十月末調査ニ依レハ東拓東
亞勸業兩社ノ件數一六一件面積四〇五五萬坪餘金額約一二〇萬圓（
其後更ニ増加シ居レリ）ニシテ若シ契稅納付ノ場合ハ約六萬圓ヲ要

外務省

S 1.4.3.0 -1

351

録件 滿洲商租問題 一件

シ之等會社トシテハ相當苦痛ヲ感スル次第ニ付右免除方更ニ強硬ニ
御交渉相成様致度シ
大臣、奉天、哈爾賓、吉林ニ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1

352

公機密第五八〇號

昭和八年六月二十三日

在滿洲國特命全權大使 武藤信義

外務大臣伯爵内田康哉殿

商租權者登録制度實施方ニ關スル件

過般公布セラレタル滿洲國暫行商租權登記法ハ滿洲國側ニ於テ之カ
實施ニ必要ナル諸般ノ準備完了ヲ俟テ近ク施行セラレヘキ手筈トナ
リ居ル處本法實施ニ伴ヒ我方トシテハ商租權者ノ保護取締ノ爲商租
證明(二月十一日附合領機密第三九號附屬丁號參照)及商租權者登
録ノ制度ヲ確立スルコト適當ト認メラレ且ツ右目的ノ爲備フヘキ簿
册等ハ在滿各館ヲ通シ一定ノ様式ニ統一シ置クコト便宜ト思考セラ
ルルニ付今般商租證明願ト共ニ土地商租證明願受付簿及土地商租權
者登録簿ノ三様式ヲ夫々別紙第一號乃至第三號ノ通立案シタルニ付
御査閱ノ上何等加除ヲ施スヘキ點アラハ至急御回示相成度此段申進

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1

353

ス

本信寫送付先 在滿各領(分館ヲ含ム)

は

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1

354

安 東 領 事 殿

添附書類

(1) 地 券 寫

(2) 商租契約證寫 (日滿文)

注意 本願書ニハ地券寫及商租契約寫 (日滿文)ノ外各其ノ原本ヲ添附スヘシ但シ原本ハ對照ノ上還付ス

外 務 省

8.7 S 1.4.3.0 -1 356

第一號 土地商租證明願

一 商租ノ目的

一 商租地ノ表示 (場所步數等)

一 商租金額

一 商租期間

右證明相成度此段及御願候也

年 月 日

右

<p>商租權者 姓 名</p> <p>商租權設定者 姓 名</p>	<p>住 所 商租權者 職業 姓 名</p> <p>住 所 商租權設定者 職業 姓 名</p>
-----------------------------------	-------------------------------------------------

外 務 省

8.7 S 1.4.3.0 -1 355

第二號

土地商租證明願受付簿

却證明 濟又ハ 下	商租契約ノ内容						當事者	出願者	受付年月日	受付番號	
	條件ノ有無	更新ニ關スル特約ノ有無	面積及周圍	租期	租價	目的					
							商租權設定者 氏 住所 職業	商租權者 氏 住所 職業	氏 住所	年 月 日	第 號

S 1.4.3.0 -1 357

備考

S 1.4.3.0 -1 358

0525

REEL No. A-0461

アジア歴史資料センター

更 變 ハ 又 轉 移						

S 1.4.3.0 -1 360

示 表 ノ 權 租 商										登 録 年 月 日	登 録 番 號	
商 租 權 者 氏 名	住 所 氏 名	設 定 租 者 權	目 的	租 價	期 間	面 積 及 周 圍	契 約 締 結 日	年 月 日	更 新 二 關 ス ル 特 約 ノ 有 無	條 件 ノ 有 無	第 號	年 月 日

S 1.4.3.0 -1 359

第三號

土地商租權者登録簿
 商租權者 氏名
 (住所、職業)

暫行商租權登記法

第一條 商租權ノ得喪變更ハ本法ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條 前條ノ登記ニ付テハ本法ニ規定スルモノヲ除クノ外不動産ノ登記ニ關スル法令ヲ準用ス

第三條 不動産登記官署ハ別ニ商租權登記ニ關スル簿冊ヲ備付クルコトヲ要ス

第四條 商租權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動産ノ登記ニ關スル法令ニ定ムル事項ノ外左記ノ事項ヲ記載スヘシ

一 商租期間

二 無條件更新ノ約定ノ有無

三 商租價及其支拂方法

第五條 商租契約ニ付キ商租期間満了スルモ無條件ニテ之ヲ更新ス

外務省

8.7

S 1.4.3.0 -1 361

ルコトヲ得ル旨ノ約定アル場合ニ限り商租權者單獨ニテ商租期間延長ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第六條 商租權ノ設定或ハ移轉ノ登記ヲ申請スルトキハ商租權ノ價値ノ千分ノ五ノ登記費ヲ納入スルコトヲ要ス

第七條 本法施行ニ關スル細則ハ司法部總長之ヲ定ム

附則

第八條 本法ノ施行期日ハ司法部總長之ヲ定ム

第九條 本法施行前取得シタル商租權ニ關スル登記ハ登記義務者所在不明ナルカ又ハ其他已ムヲ得サル事情ニ因リ登記義務者カ登記ニ協力スルコトヲ得サル場合ニ限り登記權利者單獨ニテ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記申請書ニ單獨申請スル旨及登記義務者カ登記ニ協力スルコトヲ得サル事由ヲ記載シ其實狀ヲ證明シタル村區長及四鄰ノ保證書ヲ添付スルコトヲ要ス

外務省

8.4

S 1.4.3.0 -1 362

登記官吏ハ前項ノ保證書ノ外必要ト認ムル證明文件ノ提出ヲ命ス
ルコトヲ得
第十條 本法施行前ノ商租契約ニシテ商租期間ノ更新ニ付キ別段ノ
約定ナキモノノ商租期間ノ延長ノ登記ニ關シテハ第五條ノ規定ヲ
準用ス

外務省

S 1.4.3.0 -1 363

◎暫行商租權登記法公布ニツキ
外交部當局談

(新京十三日國通) 暫行商租權登記法ハ十三日參議府會議ニ附議
ノ上十四日付公布ノ豫定テアルカ、本日右法文發表ト共ニ外交部當
局ハ左ノ如ク語ツタ
今回ノ敎令第四十六號實施ニヨリ始メテ土地商租權登記ノ道カ開
カレル譯テ、差當リソノ恩惠ニ浴シ得ルモノハ日本人テアルカ我
政府トシテハ素ヨリ日本人ニ限ラス我國ト外交關係ヲ設定セル國
ノ人民ニ對シテハ相互的條件ニ基キ本件ニ就キ好意的考慮ヲ加ヘ
ル用意アル次第テアル

外務省

S 1.4.3.0 -1 364

大同二年六月十六日大同報
暫行商租權登記法ハ十三日ノ參議府會議ニ提出セラレタル後十四日
公布セラレタルカ此ニ對シ外交部當局ハ左ノ如キ談話ヲ發表セリ
今回教令ノ實施ニ因リ土地商租登記ヲ開始シタルカ其ノ惠澤ヲ受ク
ルハ現在ノ處固ヨリ暫ク日本人ナルモ惟フニ吾國政府ノ意思ハ決シ
テ日本人ニ限ラムトスルモノニ非ス吾國ト外交關係ヲ設定セル國家
ノ人民ニ對シテモ亦互惠條件ニ基キ本件ニ關シ好意的考慮ヲ加フル
ノ用意有ルモノナリ云々

外務省

8.4 S 1.4.3.0-1 365

商租權公佈後外交當局談話
暫行商租權登記法經提出十三日參議府會議後、十四日公佈、外交部
當局、對此發表談話如左
此次因教令之實施、開始土地商租登記之途、受其惠澤者、現在固暫
爲日本人、惟吾國政府之意思、並不以日本人爲限、對於與吾國設定
外交關係國家之人民、根基互惠條件、關於本件、亦有加以好意的考
慮之準備云

外務省

8.4 S 1.4.3.0-1 366

電信課長



昭和8 一三六〇三 暗

新東京 四日後發
本省 七月四日後着

亞

内田外務大臣

第七一〇號

本使發奉天宛電報

第六六號

近來邦人ノ滿洲方面ニ對スル企業熱勃興ニ伴ヒ土地取得ノ必要愈急ナルモノアル矢先貴地方一般民間ニ於テハ商租地ノ面積ニ付特ニ軍ノ後援又ハ了解アルモノヲ除キ一戸當リ農地ニアリテハ十五町歩、市街地ニアリテハ二千坪ヲ以テ限度トシ右制限ヲ超ユル面積ノ土地ニ付テハ軍側ニ於テ之カ取得ヲ禁シ居レリトノ說廣ク行ハレ事業家

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

A.4.3.01

外務省

S 1.4.3.0 -1 367

滿洲商租問題一頁

ノ進出ヲ妨ケ居ル趣ナル處右ハ當地一部官憲ニ於テ義ニ領事館ニ於ケル證明書發給^{(二)宛スル?}自由裁量ノ範圍トシテ定メタル制限(二月十日附合領機密第三九號拙信第一項參照)ヲ其ノ儘土地取得面積ニ對スル實際的制限ナルカ如ク誤解セルニ基ク次第ニシテ軍トシテハ此ノ種制限ヲ一時的ニモ絶對ノモノトシテ維持スル意嚮アルニ非ス此ノ點ハ來ル八日開催ノ第八回民團代表懇談會席上參謀長ヨリ説明是正スル筈ナリ就テハ必要ニ應シ民間側關係ノ向ニ對シ右ノ趣旨然ルヘク御說示相成度シ

大臣及在滿各領事へ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1 368

寫送先

會文人情條通歐
計書事化報約商米

亞細亞

次大臣

電信課長

11

昭和8 一三八二二 暗

奉天 六日後發
本省 七月七日後着

蜂谷總領事

亞

本官發滿苑電報

第二四八號

第二二一號

往電第一七三號ニ關シ
既成商租權契稅免除方ニ付テハ折角御配慮中ノコトト存セラルル處
今般庵谷商工會議所會頭ヨリ同會議所ノ決議トシテ本件實現方ニ關
シ左記要旨ノ請願書提出アリ右ハ既得商租權者ニ於テ契約當初豫期
セサリシ所ニシテ所謂不當課稅ト選フ所ナク且其打擊ノ大ナルニ願

外務省

S 1.4.3.0-1

369

記
滿洲商租由題
存

ミ本件貫徹困難ノ場合ハ登記ヲ行ハサルヘント云フ向スラアリ斯テ
ハ紛議ヲ生スルト共ニ登記法所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサル處ア
ルニ付右事情御諒察ノ上本件貫徹方此ノ上共御努力相成結果御回電
請フ同文請願書貴方ニ對シテモ提出セル趣ナルモ爲念電稟ス

記

既往ノ土地商租ニ對シテハ暫行商租權登記法ニ依ル登記ヲ爲ササル
モ總領事館ノ認證ヲ以テ商租臺帳ニ登錄シ第三者ニ對抗スルコトヲ
得ルノ除外例ヲ設ケ契稅ヲ免除スルコト
大臣へ轉電シ滿、安東、牛莊、鄭家屯、哈爾濱、吉林、齊々哈爾、
間島へ暗送セリ

外務省

S 1.4.3.0-1

370

秘

昭和 8

暗

吉林 八日後發
本省 七月八日後着

亞

内田外務大臣

森岡總領事代理

第一七九號

本官發滿宛電報

第一二四號

貴電合第二八二號ニ關シ

吉林ノ關スル限リ曩ニ貴信ノ趣ヲ以テ土地取得希望者ニ應對セル爲
一般日本人ハ農地十五町步市街地二千町步ノ制限ハ單ニ領事館限リ
證明上ノ手續ニ屬スルモノニシテ右面積ヲ超過スル土地取得方ニ關
シテハ大使館及軍部ニ協議ヲ要スルモノト考ヘ居リ別ニ何等ノ誤解

電信寫

ナク現ニ敦化ニ於ケル滿鐵土地取得ニ關シテハ過般貴方及軍部ノ御
諒解ヲ得テ之ニ承諾ヲ與ヘ又目下淺野「セメント」ニ於テハ當地郊
外ニ於テ數萬坪ノ土地入手準備中ナル處今春農業經營ノ耕地百町步
以上ノ取得ヲ目論見調査ノ爲内地ヨリ新京及當地方ニ出張セル二、
三企業家カ貴地軍司令部特務部ニ就キ確カメタル所ナリトシテ語ル
所ニ依レハ拓殖事業ハ軍ノ指令ニ依ル一定會社ノ獨占トシ一般個人
ニ對シテハ大體一戸邊リ前記制限以上ノ土地取得ヲ許ササル方針ナ
リトノ印象ヲ得タリト爲念

大臣、哈爾濱、奉天、間島、齊々哈爾、牛莊、安東、錦州へ轉電セ

S 1.4.3.0 -1

372

S 1.4.3.0 -1

371

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 4.3.0.1)

昭和8 7.26 一四八八九 暗 哈爾濱 本 省 七月廿四日後着 亞

内田外務大臣

第四四六號

本官發滿宛電報

第三九四號

奉天宛貴電第五四號ニ關シ

既成商租權トハ從來南滿ニ行ハレ居リタル商租ヲ指スモノニシテ今般新ニ擴張施行セララルコトトナリタル當方面ノ商租ハ之ニ含まレサルコト當然ナリト解セララル處今般東亞勸業側ヨリ北滿ニ於ケル商租モ登記法施行細則發布以前ニ手續ヲ了シタル分ハ同シク既成商

外務省

S 1.4.3.0 -1 374

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 4.3.0.1)

昭和8 一四一七九 暗 吉林 本省 七月十二日後着 亞

内田外務大臣

第一八七號

本官發滿宛電報

第一三〇號

客月二十三日附閣下發大臣宛公機密第五八〇號公信ニ關シ附屬別紙第二號土地商租證明願受付簿及第三號土地商租權者登録簿ニハ何レモ商租土地ノ所在位置ヲ明示スヘキ欄ノ設ケナキ處右該當欄御追加相成方可然ト存ス何分ノ儀御回示ヲ請フ

大臣ニ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1 373

電信寫

秘

昭和8

暗 新京 本省

七月廿六日後着

亞

内田外務大臣

武藤大使

第八〇五號

本使發哈爾賓宛電報

第一二七號

貴電第三九四號ニ關シ

既成商租ニ對スル契稅ハ財政部ト折衝ノ結果、^後預除ノコトニ決定ヲ見ルヘキ見込ナル處右ニ所謂既成商租トハ貴見ノ通從來南滿ニ行ハレ居リタル商租ニシテ大体商租辦法ニ關スル滿洲國側訓令發出ノ日即チ本年三月六日以前ニ契約成立セルモノヲ指稱スルノ趣旨ニ解セラレ居レリ

S 1.4.3.0 -1

376

再
9/2

租トシテ契稅免除ノ取扱ヲ受ケシメラルル御方針ナル趣ニテ河東農場ノ土地商租モ出來得レハ（現状進行ノ工合ニヨリテハ書類ノ日附ヲ適ラシメ）同様取扱ニ據ル様配慮ヲ得度キ旨申出アリ右ハ結局中央ニ於ケル滿洲國側トノ話合如何ニ係ル次第ト存セラルル處其ノ邊ノ模様承知ノ上ニテ措置致度キニ付何分ノ儀御回示ヲ請フ
大臣、奉天、吉林、齊々哈爾、滿洲里へ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1

375

秘

電信寫

奉地
E 2.2.13-2

昭和8
暗 哈爾濱
本省
七月廿六日後着

森島總領事

亞
田

u. 田

内田外務大臣
第四五七號
本官發滿宛電報
第四〇八號

往電第四〇二號ニ關シ

東亞勸業ト關係者トノ話合ハ圓滿ニ進拂シ

一、東亞勸業ハ往電第一五四號(三)ノ哈大洋參萬五千五百元ヲ金書金ニ
支給スルコト

二、本件土地ヲ當初赤城ニ持込ミタル鮮人許一觀ニ對シテハ赤城カロ

頭支拂方約束セリト云ハルルハ大洋壹萬貳千五百元中ノ未拂額七
千元ヲ東亞勸業ヨリ支給スルコト

三、右以外許ト天理教側トノ關係ニ付テハ天理教ノ責任及經費ニ於テ
處理シ東亞勸業ニ於テ關與セサルコト

ニ協議繼レルヲ以テ新京中央部ノ承認アリ次第關係者間ニ調印ノコ
トトナリタリ

外務大臣、奉天、吉林、朝鮮總督府外事課長ニ轉電セリ

S 1.4.3.0 -1 378

S 1.4.3.0 -1 377

寫送先

大臣 次官 電信課長
會文人文情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

分類 1.4.3.0-1

昭和8 一五四五二 暗

新 京 二日後發
本 省 八月二日後着 亞

内田外務大臣

栗原代理大使

八五一號

六月二十三日附公機密第五八〇號閣下宛往信ニ關シ(商租權者登録制度實施方一件)目下各館ヨリノ意見ヲモ參酌シ再考中ナル處準備ノ都合モアリ早目ニ決定シ度キニ付貴方御意見至急御回示ヲ請フ

滿洲商租問題ニ付

外務省

S 1.4.3.0-1 379



發電昭和八年八月八日

商租權者登録ニ關スル件

在滿 栗原代理大使

内田外務大臣

暗第六六九號

貴電第八五一號及六月二十三日附公機密第五八〇號貴信ニ關シ

土地商租證明願ニ付テハ

(イ)商租金額ヲ記載セシムル以上ハ其ノ支拂方法ヲモ記載セシムル

コト(現ニ滿洲國ノ商租權登記法第四條ニ依レハ登記申請書ニ

モ商租金額ト共ニ其ノ支拂方法ヲ記載セシムルコトトナリ居レ

リ)

(ロ)證明願受付簿ニハ更新ニ關スル特約ノ有無及條件ノ有無ヲモ記

載セシムルコトトナリ居ル處證明願ノ記載事項ハ成ルヘク證明

願受付簿ノ記載事項ト一致セシムルコト便利ナルヘキニ付證明

願ニ右更新ニ關スル特約ノ有無及條件ノ有無ヲ記載セシムルコ

外務省

S 1.4.3.0-1 380

寫送先

會文人情條通歐
計書事化報約商米

次大臣
官

電信課長

9.14

(分類 1.4.3.0.1 /)

昭和8 一七七七九 暗 吉林 十一日後發 亞三
本省 九月十一日後着

内田外務大臣
第二五九號

在滿大使宛貴電第八〇二號ニ關シ

第七條ヲ御來示ノ通訂正セシムルコトハ無理ナキモ第五條ノ滯納處
分ノ規定ニ關シテハ從來滿洲國人ノ地稅滯納ニ對シ商埠局ノ處罰ノ
怠慢ヲ我方ニ於テ摘發非難シ來リタル關係モアリ日本人ノミノ除外
ヲ要求スルコトハ實際問題トシテ困難ト存スルニ付單ニ日本人ニ滯
納處分ヲ爲サントスル場合ハ豫メ我方ニ照會シ適宜ノ措置ヲ請ハシ
ムルコトニ交換公文ヲ以テ取極ムルコトト致度又第十七條ニ基ク建

記録簿(商租内務部)

外務省

S 1.4.3.0 -1 382

REEL No. A-0461

ト及

(イ)七月七日附間島發貴官宛機密第二七三號間島總領事ノ意見ノ通
適當ナル縮尺ノ實測圖又ハ見取圖ヲ證明願ニ添付セシムルコト
可然ト認メラル

ニ證明願受付簿及商租權者登錄簿ニ付テハ

(イ)前記(イ)ノ通商租金額ト共ニ其ノ支拂方法ヲ記載スルコト及
(ロ)受付簿及登錄簿ニ所謂「面積及周圍」ハ商租土地ノ所在位置ヲ
モ含ムモノト認メラルル處吉林發貴官宛電報第一三〇號ノ次第
モアリ右「面積及周圍」ハ證明願ト同様「商租地」ノ表示(場所
步數等)ト訂正スルコト

可然尙其ノ他細目ニ關シテハ關係各館ノ意見御參酌ノ上貴方ノ裁
量ニ依リ適宜決定セラレ差支ナシ

外務省

S 1.4.3.0 -1 381

寫送先

大臣 次官
電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人文 文書 會計

9.16

A4301

昭和8 一八〇三〇 暗 奉天 十四日後發 亞
本省 九月十四日後着

廣田外務大臣
第三五八號
本官發滿宛電報
第三一三號

九月九日附大臣宛公機密第八九三號貴信ニ關シ舊政權當時其否認的
態度ニ依リ事實上利用不可能ニ陥リ現在地方民等ノ占據ニ任セ居ル
商租地鮮カラサルヘキ處之等ハ假令今回登録規則ニ基キ登録ヲ爲ス
モ右ハ單ニ法律上對抗權ヲ得ルニ止リ現在占據中ノ地方民等ヲ立退
カシムル爲ニハ更ニ別個ノ煩雜ナル法律的手續ヲ必要トスルコトト

外務省

S 1.4.3.0 -1 384

築取締規則制定ニ關シテハ豫メ日本側ノ同意ヲ要スルヲ以テ實質上
不合理ナル罰則ヲ規定スルカ如キ惧ナク要ハ日本人ニ對シ滿洲國側
ノ直接處罰ヲ防止スレハ充分ナルニ依リ此ノ際右罰則適用方ニ付日
本人除外ヲ公文ニテ要求スルヨリモ後日右規則公布ノ際日本人ニ罰
則ヲ適用セントスル場合ハ前記第五條ノ場合ト同様豫メ日本領事ニ
照會シ我方ノ適當ナル措置ヲ請ハシムルコトニ交換公文ノ取極ヲ行
フコトト致度ニ付何分ノ儀御回電アリタシ

尙特務機關ニ於テモ大体同意見ナリ
滿へ轉電セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1

383

満洲商租問題一件

電信寫

本抄
E110.14

秘

昭和8

暗
新 京 二十日前發
本 省 九月二十日前着 亞

廣田外務大臣

第一〇九七號

本官發奉天宛電報第五四號ニ關シ

既成商租權ニ關スル契稅免除方ニ付テハ其後財政部トノ間ニ數次折衝ノ結果今般愈之カ免(除)ヲ爲スコトニ決定ヲ見タル旨同部ヨリ通報シ越セリ

奉天、哈爾濱、吉林、齊齊哈爾、間島、安東、牛莊、鄭家屯へ轉電セリ

S 1.4.3.0 -1

386

満洲
再

ナルヘク斯テハ商租人ハ一方多額ノ登録稅ヲ納メ乍ラ事實上土地ノ完全ナル利用ヲ期待シ得サル結果ニ陥ルコトトナリ不公平タルヘク此ノ點滿洲國側トシテモ何ノ程度迄既往商租權者ノ利益ヲ積極的ニ擁護セントスルモノナリヤ何分ノ儀御回示相煩度シ
大臣へ轉電シ吉林、哈爾濱、安東へ暗送セリ

外務省

S 1.4.3.0 -1

385

寫送先

會文人文情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

次大臣
官

電信課長

昭和8 一九〇五八 暗 新京 廿八日後發
 本省 九月廿九日前着 亞三

廣田外務大臣 菱刈大使

第一一五一號 (至急)

貴電第八七三號ニ關シ

附屬別表ハ飛行便ニテ送附方手配濟商租受付簿等ニ商租權設定者及
 商租權者ナル文字ヲ使用シタル處滿洲國側ニ於テハ夫々出租人及承
 租人ナル文字ヲ使用シ居リ且ツ右ハ字義一層明白ナルカ上此ノ場合
 彼我同一ノ文字ヲ使用スルコト然ルヘキヤニ存セラルルニ付若シ御
 同意ナルニ於テハ右様變更印刷方御手配ヲ請フ

S 1.4.3.0 -1

388

外務省

寫送先

會文人文情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

次大臣
官

電信課長

昭和8 一九〇六六 暗 新京 廿八日後發
 本省 九月廿九日前着 亞

廣田外務大臣 菱刈大使

第一一五〇號

本使發奉天宛電報

第一二二號

貴電第三一三號ニ關シ

御來示ノ如キ事態ニ對スル措置方ニ付テハ商租辦法ニ關スル打合當
 時ヨリ問題トナリ滿洲國側ニ於テモ考慮中ノ處結局登記濟ノ正當商
 租地ニ於ケル不法占有者ニ對シテハ警察力ノ行使等ニ依リ之カ立退
 ヲ強制スル外ナルカヘク目下右ヲ可能ナラシムル方法ニ付攻究中ナ
 大臣、吉林、哈爾濱、安東へ轉電セリ

S 1.4.3.0 -1

387

外務省

9.30

記録付 關西商租の返一

機密第三三八號

昭和八年九月二十九日

在局子街 副領事 田中

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和八年九月二十九日附機密第一〇三號寫送付

在滿大使 宛

件名

一、歸化非歸化等々人差別撤廢方ニ關スル件

在間島日本總領事館局子街分館

第三課

件名 滿洲高租日款一件

昭和八年九月九日 附屬物添付



S. 1.4.3.0-1

389

馬

機密第一〇三號

昭和八年九月二十九日

在局子街 副領事 田中 作

在滿洲國

特命全權大使 麥刈 隆 殿

歸化非歸化鮮人差別撤廢方ニ關スル件

間諜四縣ニハ御承知ノ通り從來歸化鮮人ナルモノ多數(間諜在任四十萬人中約五分ノ一ヲ占ムト稱サル)アリ右ハ素ヨリ帝國政府ノ承認セサル非合法的歸化者ナルカ箇政權時代ニ於ケル歸化鮮人ハ一般鮮人ニ比シ土地所有權(舊政權時代ハ歸化者ニ限り土地ノ所有ヲ許シ一般鮮人ハ歸化者ノ名義ニ依リ間接的ニ所有シ條約上權利ニ均霑

S. 1.4.3.0-1

390

シ居ラス) 地方自治參政權(地方自治ニ參與シ我方ノ鮮人民會ニ反
對ス)ヲ享有其他一切特殊待遇ヲ受ケ大正四年滿蒙條約締結後モ我
方ノ支配拒否ノ態度ヲ持シ陰然彼等ノ所謂民族的一勢力ヲ樹立シ居
タル狀況ニ在リ彼等ノ民族主義運動モ亦歸化鮮人ニ依リ暗中積行ヤ
ラレツツアル疑アリ而シテ滿洲事變後ハ此種差別的不法モ當然漸次
除去セラレントスル傾向ニ在ルモノノ如キモ奧地方ニ於ケル歸化者
中ニハ尙ホ依然不法特權ヲ振廻シ一般鮮人ニ迷惑ヲ及ホスモノアル
趣ニテ又中國共產黨ノ傘下ニ活動シツツアル當地方鮮人共匪トノ關
係ニ於テ共匪ハ此等歸化者ニ對シ支那時代ヨリ同國人同様ノ忠誠者
ニシテ民族的意識強固ナルモノナリトノ觀念ヲ以テ臨ミ其殺戮並人
掠財等ノ暴行ハ主トシテ親日系ト目セラルル非歸化者ノ上ニ加ヘラ

S 1.4.3.0 -1 391

ルル傾向アリ且ツ現在地方官憲中ニモ此種差別的意識未タ全ク消脫
セサルモノアルヤニ認めラルトコロ斯クテハ滿洲國ノ公正無私ナ
ル施政方針及條約ニ背反シ延テ我鮮人統治上ニモ惡影響ヲ及ホスニ
至ル結果ヲ招來スル虞アリ而モ右ハ獨リ間諜ノミニ止マラス全滿ニ
涉リ同様狀態ニ在ルモノト思科セラルルニ付テハ此際滿洲國政府ヲ
シテ爲念舊政權ノ不法行爲タル所謂歸化非歸化鮮人ニ對スル差別待
遇一切ヲ撤廢スルト同時ニ從來歸化鮮人名義ヲ以テ内面的ニ所有シ
之カ爲メ年々不當ノ支出ヲ餘儀ナクセシメラレツツアル一般鮮人ノ
土地ヲ直接正式ノ所有權タラシムルニ必要ナル施措ヲ更メテ嚴ニ執
ラシムル様御配慮相成度此段卑見申進ス

不信寫送付先

外務大臣、間島、奉天、吉林、敦化、
琿春、百草溝、頭道溝

S 1.4.3.0 -1 392

10.30

電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
會計
文書
會議

寫送先

分類 14.30.1

昭和8 二一三九一 略

赤峰
本省

廿八日後發
十月廿八日後着

亞

清野領事

第一二六號

本官發滿宛電報第一二〇號

熱河省内ニ於ケル本邦人ノ土地商租權ハ近ク御協定セラルルモノト
拜察セラルルモ未タ其ノ電報無キ爲例ヘハ朝陽ノ如キハ其ノ希望者
多キニ拘ラス未タニ停車場附近ニ旅館又ハ待合所ヲ建ツル者無ク又
各市街地ニ於テハ借家ノ拂底ヲ見ナカラ家屋新築ヲ爲ス能ハサル有
様ニテ爲ニ單ニ商租權ヲ得度トスル本邦人ノミナラス一般ノ人モ砂カ
ラス不便ヲ感シ居ル次第ニ付成ルヘク速ニ本件權利ヲ御協定相成様

外務省

S 1.4.3.0 -1

393

電報 尚物 商租 中 於 存

致シ度シ若シ御協定ニ相當ノ時日ヲ要スル場合ニハ差當リノ辦法御
垂示相仰キ度尙又當省ノ現狀ハ南滿地方ト同一ニ律スヘカラストノ
御懸念モ有ラハ農業用地及鑛業用地ハ暫ク之ヲ除外シテ市街宅地ニ
付テノ商租ヲ認ムルコトトセハ利權屋活動ノ弊モ防止シ得ヘシト
存ス
外務大臣へ轉電セリ
承德へ郵報セリ

S 1.4.3.0 -1

394

外務省

電信寫

本件
G3.1.0.3

昭和 七 略 新 京 十一月廿二日後發 亞

廣田外務大臣

第一四二三號

本使發赤峰宛電報

第五八號

貴電第一二〇號ニ關シ

本件ニ付テハ豫テ關係ノ向ヘ提案シ居レルモ諸種ノ事情アリ實現迄ニハ相當ノ日子ヲ要スルヤニ認メラルルニ付テハ差當リノ措置トシテ事實上滿人トノ間ニ土地賣買其他地權ノ讓渡アリタル場合ハ内面的ニ滿洲國地方官憲ト聯絡ノ上當該契約ヲ領事館ニ於テ認證スルコトト致度シ

大臣、承德、轉電セリ

S 1.4.3.0 -1 396

電信寫

本件
G3.1.0.1

秘

昭和 8 暗 新 京 十一月十八日後發 通

廣田外務大臣

第一四〇六號

本使發在滿洲各領事（滿洲里、海拉爾、赤峰、承德ヲ除ク）宛電報合第六〇九號

商租權登記法ハ十二月一日ヨリ實施スル事トナリ施行細則別途公信ヲ以テ送付スルニ付二月十七日附合領機密第四號拙信申進メノ期間告示ハ右細則御入手ノ日附ヲ以テ出サレ度（尙告示案中登錄トアルヲ登記ト御訂正アリタシ）

大臣へ轉電セリ

S 1.4.3.0 -1 395

秘

電信寫

本対
B4.0.0.1/21

昭和8

機

新 京
本 省

十一月廿二日後發

亞

廣田外務大臣

菱刈大使

第一四二四號

貴電第一〇四八號ニ關シ

課税及警察法規トモ滿洲國側ニ於テ調査整理ノ上我方ノ承認ヲ希望
スルモノニ付「リスト」ヲ作成シ協議越スコトトナリ居リタル處課
税ニ關シテハ最近急ニ不取收國税ニ付一般的承認ヲ要請スルコトヲ
骨子トスル提案ヲ持出シ來レルモ警察法規ニ關シテハ未タ整理付カ
サル趣ニテ協議ヲ開ク遲ニ至ラス或ハ右兩者トモ登記法實施ヲ見ル
モ我方トシテハ暫ク現狀ヲ維持スルノ外無カルヘキヤニ思考セラレ

尙課税ニ關スル前記滿洲國側提案ハ當方意見ト共ニ追而電報スヘキ
モ先方ノ要望切ニシテ我方ニ於テ右ニ對シ一般的承認ヲ與ヘサル限
リ熱河興安兩省ニ對スル商租權ノ擴張ハ到底實現困難ナル模様ナリ

S 1.4.3.0-1

398

S 1.4.3.0-1

397

REEL No. A-0461

アジア歴史資料センター

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

次大臣
官

電信課長

11.27

A.43.0.1

昭和8 二三二三九 略 赤峰 廿五日後發 亞三
 本省 十一月廿六日前着

廣田外務大臣
 第一四九號
 本官發滿宛電報
 第一四四號

(土)地賣買其他地券ノ讓渡ヲ無制限ニ認ムル事ハ弊害アルヘキニ
 依リ大體南滿地方ニ於ケル制限ニ倣ヒ取扱フ事然ルヘント存セラル
 ルニ付テハ右ニ關スル參考資料御送付ヲ請フ
 大臣へ轉電セリ

清野領事

外務省

S 1.43.0 -1 400

秘

電信寫

昭和8

廣田外務大臣

第一四三一號

柳井課長へ吉澤ヨリ

貴電第六一一號末段專賣實施ト望厦條約ノ規定門戶開放及治外法權
 トノ關係等ニ關スル對外應酬振ニ關スル本省ノ案未タ接到シ居ラサ
 ル處貴電第一〇五一號ニ依レハ愈々既定ノ原案ニテ準備ニ著手スル
 コトト相成リタル趣ニ付當方ニ於テハ本件ニ關スル對外應酬振成ル
 ヘク早目ニ心得置ク必要アルニ依リ本件本省案至急御送付方御配慮
 ヲ得度シ

機

新
本省

十一月廿四日後着

亞

菱刈大使

S 1.43.0 -1 399

電信寫

本州
I/S. 0.2-107

昭和8
廣田外務大臣

略 敦化
本省

十一月廿六日後着

草野副領事

頭二

第四一號
在吉林總領事發閣下宛電報第二九七號及本官發大使宛電報第一二號
ニ關シ

敦化小學校々舍敷地買收代金三千五百圓ハ滿洲銀行吉林支店ヨリ借
入ノ上十一月二十五日所有者ノ代人タル敦化縣廳ニ交付買收ヲ了シ
タル處右土地ノ商租ニ關シテハ契稅免除並ニ所有者ト第三者トノ舊
貸借期限カ本年九月末日ト爲リ居ル爲爾後ノ家賃負擔ノ關係モ考慮
シ民會側ヲシテ其ノ直後ニ遡リ即チ十月一日ヲ以テ契約締結ノ期日

トシテ商租公認願ヲ提出セシメ公認ヲ與ヘ來ル十二月一日以後ニ至
リ滿洲國暫行商租權登記法ニ依リ敦化縣公署ニ手續セシムルコトニ
取計ヒタリ尙右ニ關シテハ同縣廳ト萬事打合ハセ濟ミナリ
就テハ發ニ支出方御承認ヲ得タル本件敷地買收補助資金一千圓也ノ
高至急御電送ヲ請フ
滿・吉林へ轉報セリ

S 1.4.3.0 -1

402

S 1.4.3.0 -1

401

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

次 大臣
官

電信課長

12. 4

1.4.3.0-1

昭和8 二三七二〇 略 敦化 一日後發
 本省 十二月二日後着 亞

廣田外務大臣 草野副領事

第四三號

吉林發本官宛電報第一七號ニ關シ
 本件商租契約ノ日附ハ所有者及舊契約（單ナル賃貸借契約ニシテ商
 租ニアラス）當事者タル第三者側了解ノ下ニ之ヲ三月一日ニ訂正セ
 シメ處理シ置ケリ
 滿、吉林へ轉電セリ

S 1.4.3.0-1 404

外務省

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

次 大臣
官

電信課長

12. 1

1.4.3.0-1

昭和8 二三五一 略 吉林 廿九日後發
 本省 十一月廿九日後着 亞

廣田外務大臣 森岡總領事代理

第三〇七號

本官發敦化宛電報
 貴官發大臣宛電報第四一號ニ關シ
 契稅免除ノ爲契約日附ヲ廻ル趣旨ナルニ於テハ貴館開館前大使發哈
 爾賓總領事宛電報第一二七號ノ回訓ニ依リ本年三月六日以前ノ契約
 ニ限り既成商租トシテ取扱フコトトナリ居ルニ付右ニ御承知ノ上然
 ル可ク御措置アリタシ
 大臣、滿へ轉電セリ

S 1.4.3.0-1 403

外務省

12.

電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

會計

寫送先

昭和8 二二六五六 暗

新京

本省 十二月一日後着

亞、通

廣田外務大臣

菱刈大使

第一四五三號ノ一

赤峰發本使宛電報第一二〇號ニ關シ

商租權ヲ熱河ニ及ホスコトニ付目下滿洲國側ト協議中ノ處滿洲國トシテハ主義上右擴張ニ異存無キモ曩ニ商租辦法ノ申合ニ伴ヒ滿洲國側ニ於テ商租權ヲ大正四年日支條約ノ範圍ヲ跳越エ黑龍江省ニ迄擴張シタルニ對シ日本側ニ於テ之カ對償トシテ當然措辦スヘシト期待シタル一般課稅ノ原則的默認ヲ何時迄モ躊躇シ極メテ小範圍ノ稅目ニ付テノミ默認ヲ與ヘ居ルニ過キササル現狀ニ於テ滿洲國要人ノ困惑

支那側ノ意見
此ノ點ニ對シテ
如何ニ對償スル
ハ重要ナル事
ナリトシテ
如何ニ對償スル
ハ重要ナル事
ナリトシテ
如何ニ對償スル
ハ重要ナル事
ナリトシテ

S 1.4.3.0 -1

405

滿洲商租問題一件

ハ勿論(一部ニハ商租辦法ニ付テハ日本側ニシテ遣ラレシトノ強キ考ヲ有スルモノアル由)一般滿洲國人ニ對スル關係ニ於テモ到底實行スルコト能ハス之カ實行ノ爲ニハ此ノ際速ニ課稅問題ノ全般的解決ヲ爲スコトヲ要シ特ニ右解決ハ日滿關係ノ大局ニ立脚シ專ラ政治的考慮ニ基キ爲サルヘキモノナリトノ主張強ク取急キ左記案ニ依リ妥結方要望シ來レリ

(一)日本人ニ對スル内國稅ノ賦課ニ關シテハ商埠地ヲモ含ミ原則トシテ滿洲國人ト同様ニ取扱フコト

(二)課稅スヘキ種目ハ田賦營業稅(牙當稅ヲ含ム)漁稅、契稅、鑛稅(煤稅ヲ含ム)牲畜稅出產稅、鹽稅、酒稅、菸稅、各種統稅、印花稅、火柴公賣費タルコト

S 1.4.3.0 -1 406

外務省

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

12. 4

昭和8 二二六五三 暗 新京 一月一日後發 亞、通
 本省 十二月一日後着

廣田外務大臣 菱刈大使

第一四五三號ノ二

査スルニ右案ハ貴電第三五一號御來訓ノ趣旨トハ根本的ニ相違シ原
 則トシテ滿洲國側ノ課税ニ服スルコトヲ建前トスルモノナル處實際
 問題トシテハ營業稅ノ外ハ多ク既ニ默認シ居ルモノニシテ殊ニ稅目
 ノ大部分ハ間接稅ナル關係上之カ課税ニ依リ受クル影響ハ必スシモ
 大ナラサルヘシト認メラルル一方滿洲國側ニ於テハ近時稅制ノ整理
 徵稅機關ノ整備等ニ於テ改善ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ日本人ノ課稅不服
 從カ滿洲各地ニ於ケル日本人ノ膨脹ト共ニ著シク滿洲國人一般注目

S 1.4.3.0 -1 408

外務省

外務省

(三)課稅上紛議ヲ生シタル時ハ稅務監督局日本側領事ト商議ノ上之ヲ
 解決スルコト

(四)銷場稅及水利稅ハ最近ノ機會ニ之ヲ廢止シ其ノ他ノ稅種ニ付テモ
 之カ合理化ヲ計ルコト

(五)地方稅ニ付テハ差當リ現狀ノ儘トシ追テ協議スルコト(續ク)

S 1.4.3.0 -1 407

ノ對象トナリ兩者間ニ存スル負擔ノ相違ハ漸次對日本人感情ヲ惡化シ（日本人名義ヲ借リテ脱稅ヲ企ツル者所在ニ現ハルル一面地方ニ依リテハ課稅ニ服セサル日本人ノ爲競争上不利ノ立場ニ置カレ閉業スル者スラ相當アル由）統治上頗ル不便ナル事態ヲ醸シツツアルハ否ミ難ク（殊ニ中央財政當局ヲ初メ地方稅局ニ至ル迄日系官吏ニ於テ實際ノ運用ニ當リ居ル今日殊更ニ日本人ノ利益ヲ阻害スル如キ課稅上ノ措置ニ出ツルコトハ萬ナカルヘキ次第ニシテ若シアリトセハ中央ニ於ケル日系官吏ノ指導ニ一段ノ留意ヲ要スルコトヲ意味ス）旁此ノ際大局上ノ見地ヨリ本件滿洲國側要望ヲ容認シ國稅ノ關スル限リ一般的ニ前項諸稅目ヲ默認スルコトトシ右ニ依リ滿洲國側ニ對シ我方ノ公正寛容ナル態度ヲ示スト共ニ熱河、興安兩省ニ對スル商

S 1.4.3.0-1 409

外務省

租權ノ擴張ヲ實現スルコトト致度シ
尙本件一般的課稅默認ノ結果商埠地其他日本入多數在留シ居ル地區ニ於テハ民會ノ負擔ノ外新ナル負擔加ハルコトトナルヘキ處滿洲國側ニ於テハ教育施設ニ關スル日本人側特殊ノ事情ニ鑑ミ之等地區ニ付適當ナル考慮ヲ加フル用意アル趣ナリ
就テハ本件ニ關シ貴見何分ノ儀至急御電訓ヲ請フ
軍側ト打合濟
冒頭赤峰來電ト共ニ奉天、哈爾濱、吉林、間島、濟々哈爾、安東、營口、綏州、鄭家屯へ轉電セリ
赤峰へ轉電セリ

S 1.4.3.0-1 410

外務省

秘

電信寫

本件
E13.1.1-d

昭和8

暗

吉林

本省 十二月二日後着

通

森岡總領事代理

廣田外務大臣

第三〇九號

本官發滿宛電報

第二〇四號

合機密第三七八號貴信ニ依レハ貴方滞在政務官打合ノ結果親ノ出產
稅ヲ百分ノ二トスルコトニ了解成立セル趣ノ處十一月三十日附滿洲
國政府教令第九四號及九五號ヲ以テ公布セラレタル出產料石稅法
及暫行料證營業稅法ニ依レハ出產稅百分ノ一、營業稅百分ノ一トナ
リ從テ鮮農ノ負擔ハ豫想額ノ半額ニ減シ好都合ナルモ他面鮮人ノ經

營スル米問屋ハ營業稅ヲ負擔スルコトナリ主義上面白カラス(ト)
存セラルル處之ヲ默認シテ然ル可キヤ何分ノ係御回電アリタシ
卑見ニ依レハ實際問題トシテハ寄附ノ名儀ヲ以テ營業稅ヲ支拂ハシ
ムルノ外無カル可キヤニ察セラレ
大臣、奉天、哈爾濱、齊齊哈爾、敦化へ轉電セリ

S 1.4.3.0 -1

412

S 1.4.3.0 -1

411